

ていた関連する手続きなどを、1カ所で全ての手続きが完結するワンストップサービスを検討すべきと考え

▼京都府亀岡市【5月12日】  
▼セーフコミュニティ推進事業

亀岡市セーフコミュニティ推進事業は、市民誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを「市民・行政・団体」などが協力して協働で進められ、交通安全・防犯・自殺・乳児の安全・スポーツの安全・高齢者の安全・防災の7つの対策委員会を立ち上げ安全の向上に向けて取り組みを行っている。

岩沼市でもふれあいパトロールなど、現在ある活動組織の活性化を図り、「市民・行政・団体」が一体となって協働のまちづくりを進めていくべきと考える。

▼兵庫県神戸市【5月13日】  
▼障害者就労事業

神戸市の障害者就労支援については、「就労に向けての相談」、「就労に向けての準備・訓練」、「就職活動、トライアル・就職後の定着支援」など関係団体との連

携が取られ、障害者に寄り添った支援活動が行われている。また、市役所内での取り組みとして、「障害者トリアル実習」で、就労の場として市役所内で短期間の実習機会を提供している。さらに「訓練雇用」として、市役所内の補助業務等に従事する障害者雇用も短期間だが行っている。

岩沼市でも、このように市役所内で障害者が社会に出る就労体験の場の提供についても考えるべきである。

また、神戸市が行っている超短時間雇用などの「多様な働き方の創出」も大いに参考にして取り組み、障害者の働き方を広げていくべきと考える。



宝塚市で調査する委員

建設産経常任委員会

▼佐賀県唐津市【5月16日】

唐津市では、コスメという一つの分野を単なる企業誘致ではなく、業種・業界・関連企業と絞り込み、産学

官連携も含めた多くの角度から検証や研究を重ねること、企業の進出や起業、創業、地産商品の開発、国外輸出の販路拡大を図るなど、流出人口の抑制や地域雇用、市民所得の増加などにつながる取り組みを行っていた。

岩沼市でも交通の利便性が良い環境を生かしつつ、原料を加工し、販売するような地場産業を育成するなど、若者の起業を促すための産学官連携や地元産業との連携による取り組みを研究すべきと感じた。

また、水田転作や耕作放棄地の活用といったような既存の資源活用や新規分野の開拓などにも視点を置きつつ、新たな産業づくり、企業誘致などを進めいく必要があると考える。

▼熊本県合志市【5月17日】  
▼こうし未来研究所・合志

市空き家プロジェクト

こうし未来研究所は合志市など複数の団体が株主となって設立され、まちづくり会社として行政ができない収益性を伴う事業を展開している。

空き家対策は民間不動産業と連携するだけではなく、こうし未来研究所が売買や賃貸、管理などの面で積極的に介入するなど、一歩進んだ空き家問題の解決やまちづくりを進めており、全国に先駆けた方法で自治体が抱える問題の解消に取り組んでいる。

岩沼市でも、合志市のように行政ができない部分を民間会社に委託する取り組みなどを幅広く行うことで財政の負担を減らし、収益性の高い事業が展開できるのではないかと。補助金に頼らない行政経営を進めることが必要になる中、合志市の取り組みは一目置く必要があると思われる。

▼熊本県荒尾市【5月18日】  
▼地域エネルギーの有効活用等を中心としたまちづくり

荒尾市では、民間による大規模太陽光発電所や地域

新電力会社が設立されるなど、官民連携による地域エネルギーの地産地消に取り組んでいる。また、市内競馬場跡地利用も単なる土地区画整理事業ではなく、ゼロカーボンやSDGsを推奨しながら、快適に暮らしやすいまちづくりを進めていることは、非常に参考になる取り組みだと感じた。

岩沼市にも沿岸部にメガソーラー発電所があるが、土地の税収だけではなく、地域内の電力の在り方についても検討するなど、人口減少が進むことが想定される中で、行政が先を見据え、新たな施策を起こしていくチャレンジ精神を育み、意識改革をしていくことは非常に重要であると考えさせられた。



合志市で調査する委員